

<p>① 設定 目標</p>	<p>～つくる～ つけたい力を意識した学ぶ喜びを感じる魅力ある授業の創造</p>
<p>② 本年度の 取り組み 状況</p>	<p>◆確かな学び (TM) を育む学校づくり推進事業 (大阪府加配事業) を活かした学力向上・授業力向上の取組</p> <p>①校内研究の共有化: 昨年度の総括を受けて、新体制で年度当初に以下の点について確認共有を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちにつけたい力 (どんな変化にも対応できる柔軟な基礎学力、自ら主体的に学ぶ姿勢、他人の考えを聞き、自分の考えを深め表現する力) ・東能勢授業スタイル (めあて、振り返りを行う授業の流れ、どの子もわかるユニバーサルデザインの視点、授業でのきまり・家庭学習の手引き) の確認 ・今年度の研究テーマ (アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業づくり～言語活動を取り入れて～) の確認と方法の協議 ・各教科の授業の心構えや家庭学習をまとめた「学習の手引き」を作成し、それを活用した授業オリエンテーションを行った。→生徒の勉強に関する不安の軽減。評価の視点がわかり何をどうがんばるかなど学習に向かう態度を育てる機会となった。 <p>②講師を招いての校内研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寝屋川市立桜小学校長 一柳 康人氏 (元大阪府教育センター小中学校教育推進室長) 7月9日、8月28日、11月12日 学力向上のための教員の授業力向上部門の上席として活躍されていた一柳先生に来校いただき、本校の授業参観、校内研究の進捗を見ていただいた後、2回にわたってご講義いただき。また、先生のご専門が数学であったので若手数学教員を対象とした授業研究の指導助言をしていただく。→若手教員の自信とやる気につながった。 ・府教育庁および教育センターの指導・支援 3回 (9月、1月、2月) の学校訪問を受け、研究の進捗状況や方向性、成果と課題などについて助言を受ける。 <p>③相互授業参観週間 (学期に一回、6月、10月、1月に実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマと重点目標 (言語活動を取り入れて) を意識して、全職員が空き時間に他の教員の授業を参観。「授業参観シート」にて評価・コメントを記入し相互で助言し合った。 →教員どうしの刺激 向上心の育成につながった。 <p>④学力向上委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・週1回の運営委員会と兼ねながら、学力向上の取組のPDACサイクルのもとを作る会として機能した。学校活性化計画の確認と評価、定期テストでの活用問題の情報交流、校内研修の企画運営などを行った。 <p>⑤生徒が主体となる取組</p> <p>生徒会「東能勢授業スタンダード」に基づき、学期ごとにアンケートをとり、自分自身とクラスの振り返りを行う。その結果から見える成果と課題を学期末の生徒集会、学級会で発表し合い、クラスや自己の学習姿勢について確認し合った。</p> <p>《続けていきたい3つのこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間・・・チャイム着席をする。 あいさつ・・・授業のはじめと終わりのあいさつをする。 教え合い・・・互いに話し合い、教え合いをする。 <p>《変えていきたい3つのこと》</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備・・・忘れ物をなくそう。 集中・・・授業中の私語をやめ、人の話をしっかり聞こう。 積極性・・・すすんで発表、質問しよう。

<全国学力・学習状況調査の結果から>

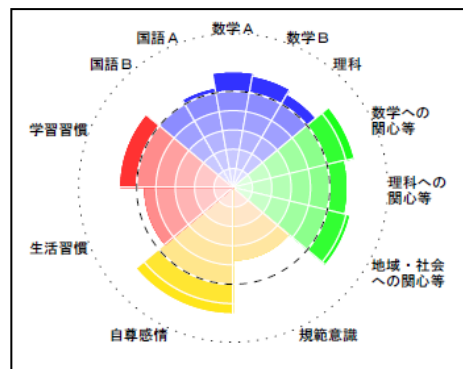
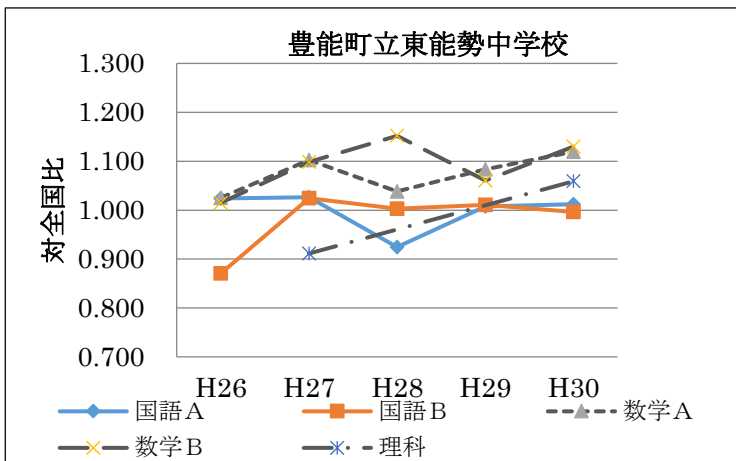
【学力調査結果の概要】

(平成 30 年 4 月 17 日全国の中学校 3 年生対象に実施)

国語はA・Bとも全国平均とほぼ同程度であった。数学はA・Bとも全国平均を0.1ポイント以上上回った。(グラフ右上)理科も前回(H27)から大きな伸びが見られる。

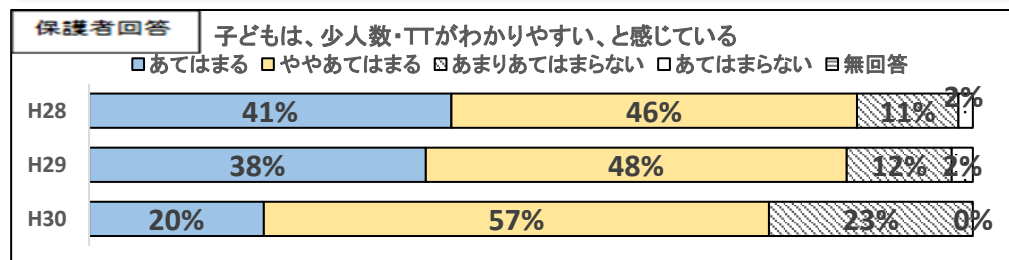
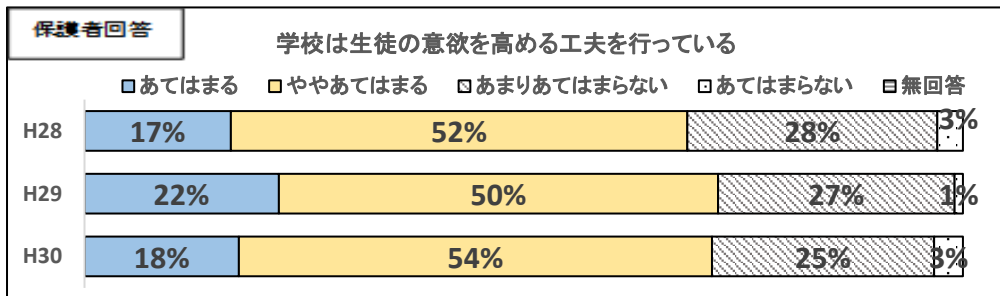
また、全国を基準にして表したチャート図(右下)からもわかるように、理数系教科への関心が高く、それは正答率の結果にも表れている。学習習慣も身につけている生徒も多く、本校の6年間に渡る学力向上の取組が定着してきたと考えられる。

(詳細は、別紙 H30/11/9 配布の調査結果について参照)

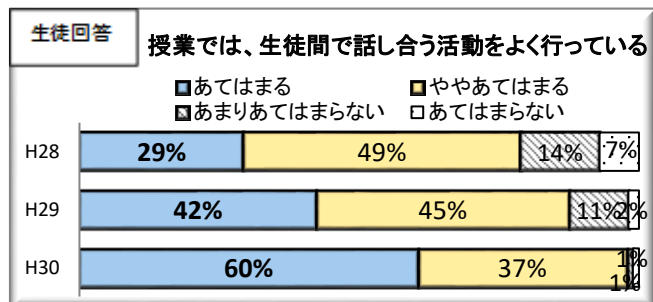


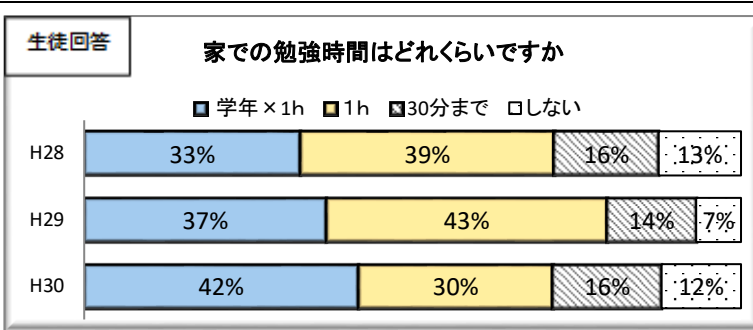
<学校教育自己診断の結果から>

今年度は30人を超える1,2年生においては、学級運営を2クラス展開、1学級の3年生においても作業を伴う芸術教科を中心に少人数制授業を行った。特に授業の工夫改善に取り組んでいる英語・理科では少人数分割授業、チームティーチング(TT)などを取り入れた。保護者回答でも下のグラフのように、「学校は学習意欲を高める工夫を行っている」や「少人数・TTがわかりやすいと感じている」に関して評価をいただいている。



教職員は、今年度の研究テーマでもある「アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業づくり～言語活動を取り入れて～」を意識して、授業づくりに取り組んだ。具体的には生徒たちが自ら考え、ペアやグループでの対話・討議を経て深い学びを実現していく過程を授業の中に盛り込もうとした。右グラフ「授業では、生徒間で話し合う活動をよく行っている」の生徒回答からもわかるように、実感している生徒も増えてきて、テーマに即した研究の成果が表れている。

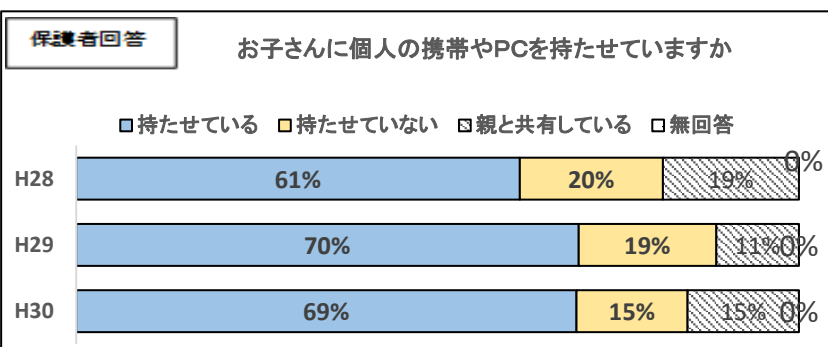
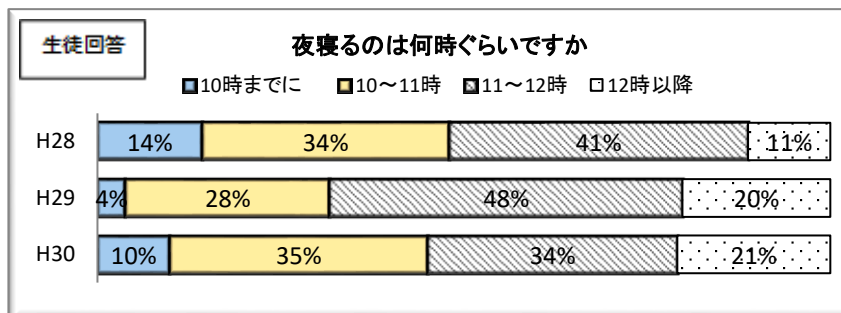
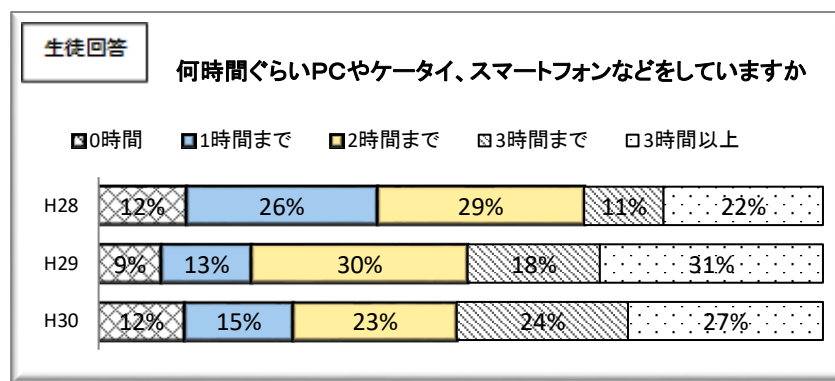




また、本校の課題であった家庭学習の定着においても、「家での勉強時間はどれくらいか」の問いに対する回答も徐々に増え、今年度は「学年×1時間」は勉強していると回答している生徒の数が増えている。「学習のてびき」を使った各教科のガイダンスや週末課題、長期休業中の補習等の取

組によるものであると考えられる。

昨今の課題の一つとして、パソコン（PC）、携帯電話、スマートフォンなどの所持や使用と生活習慣との関係である。本校の生徒についても、個人のものとしての所持率も約7割になり、それらの機器の使用時間については年々増える傾向にある。今回のアンケートでも2時間以上使用すると回答しているのが51%と半数以上にも及ぶ。一方、夜寝る時間の調査結果では21%もの生徒が12時以降と答えている。健康で充実した生活習慣や学習習慣の確立のためには電子機器等の使用についてのルールや注意事項を家庭とともに考えて取り組んでいく必要がある。

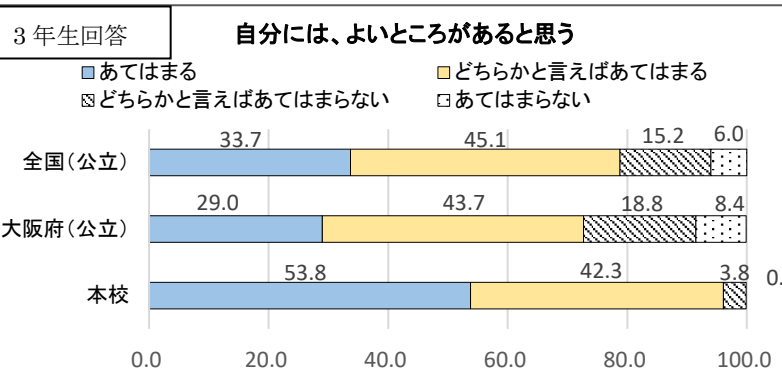


④ 学校関係者評価（学校協議会等からの提言）

- アクティブ・ラーニングの視点を取り入れた授業づくり(言語活動)、を評価する。継続した取り組みになるよう切望する。
- 言語活動を取り入れているという事で、1分間スピーチや班での話し合いを積極的に行っていると聞き、良い取組だと思う。
- 大変素晴らしい取組みだと思う。中学を卒業したら、自分の将来の道への模索を課せられる。将来、自分がどんな仕事をしたいのか、そのためにはどんな勉強が必要で、何処で学べば良いのか。そしてそれを表現できる力が必要となってくる。
- 社会人はもちろん、学生時代でも、プレゼン力を求められる機会もあり、グループでのディスカッション、ディベートなど言語能力の育成は必要である。中学生のうちから言語力、創造性、行動力をつけていくのは将来に繋がることであり、自分への肯定力にも繋がっていくように思われる。
- 生徒回答で、授業では生徒間で話し合う活動をよく行っているというのがあてはまると回答する子が増えてよい結果になっていると思う。
- アンケートでは、家での勉強時間における「学年×1」の割合が増加しており、良い傾向が見られる。高校においては、自学学習が主体になってくるため、さらに家庭学習が定着するよう家庭と協力して指導されることを望む。
- 講師を呼び学力向上への取り組みを行い「授業参観シート」等を利用し、教師間の意識向上になったのが良かったと思う。
- アンケート結果で、家での勉強時間「しない」人が12%は多い。分析・対応策が必要。
- スマホやPCを使用している時間が長いのは、子どもに限らず、現代社会における課題だと思う。

<p>① 設定 目標</p>	<p>～はぐくむ～ 自己を大切に、他者を思いやる豊かな心の育成</p>
<p>② 本年度の 取り組み 状況</p>	<p>◆ 全教員で取り組む道徳授業</p> <p>①今年度の「豊能町教育委員会指定研究校」に承認を受け、来年度から始まる道徳の教科化に向けて、研究を行った。道徳教育推進教師をはじめ、各学年の道徳担当者はこれからのミドルリーダーになる中堅、若手教員が中心となり、道徳の時間の全体計画、指導計画を作成した。</p> <p>②全教員でかかわるローテーション体制 管理職や養護教諭も含め、内容項目を分担して全員で授業を担当する。6年目を迎えるこの体制もほぼ定着し、回数を重ねることで教員にも得意な内容項目ができ、多面的で深い授業づくりにつながった。</p> <p>③校内研修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 東能勢小中合同研修会 (8月24日) 昨年度、大阪府道徳教育推進事業の推進指定校であった東能勢小学校とともに道徳の多様な指導方法や評価方法を学ぶ研修会を設定した。研究主担であった小学校の首席教諭の講話の後、小中混合のグループに分かれ、実際の児童生徒の道徳シートを使った評価に関するワークをおこなった。「特別の教科 道徳」が先行実施されている小学校から実践的な学びを共有することができた。 ・ 示範授業および講話 (11月27日、12月3日) 大阪教育大学附属天王寺中学校指導教諭の荊木 聡先生をお迎えして、1年、2年の示範授業と授業づくりのポイントや評価方法についてお話をさせていただき校内研修会を2回実施した。荊木先生は道徳授業の実践家であり関係の著書も多く、本校教員も示範授業の参観を通して発問や討議での生徒の変容やワークシートでの教員の評価方法などについて多くを学ぶことができた。 <p>◆ 豊かな人間性をはぐくみ、人権意識を高める取組</p> <p>①総合的な学習の時間・学級活動において、集団作り、人間関係づくりを意識した教育活動を展開した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <1年> ASEプログラム、伝統文化体験、防災・環境学習、命の学習、働くこととは等 <2年> 大阪の歴史から学ぶ戦争と平和、異文化交流・共生(人権FW)、職場体験学習等 <3年> 長崎旅行から学ぶ戦争と平和・歴史文化、保育体験、国際交流、進路学習等 <p>②生徒主体で行う生徒会発信の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 挨拶運動(定例化 小学校児童会との合同実施)、ボランティア活動(災害時の募金、草刈り)、地域サポーターとの交流(植栽、収穫物をつかっての活動)、委員会主催の行事(球技大会、百人一首大会等) <p>◆ 生徒理解を深め、課題に正対する体制づくり</p> <p>①生徒指導連絡会(=いじめ・不登校対策委員会)を毎週1回定例化し、生徒の状況把握、課題発見と共有、対策への協議等機会を持ち、必要に応じてケース会議や専門家への相談等につなげた。</p> <p>②学期ごとの生活アンケートおよび2回のミニ懇談会(夏休み明け・11月) 生徒たちの学校生活の状況をアンケートによって、いじめや不登校、問題行動につながる事案がないか調査し、ミニ懇談会でひとり一人の状況を把握した。学校への行き渋りや生徒の悩みなどが表れてきたら、学年会、生徒指導連絡会で共有し、早期より手立てが講じられるよう努めた。</p>

<全国学力・学習状況調査の結果から>



今年度の3年生を対象に行われた本調査の生徒質問紙で印象的であったのは、左図でも示しているように自分に対してある程度自信を持ち、有用感を高めたいと思っている生徒が多いということである。「人の役に立つ人間になりたいと思う」という問いにも肯定的は90%を超えていた。今年度の3年生は小学校から9年間1クラス

体制であった学年集団であるが、小・中学校生活の中で自他ともに認めあい、自分らしさを大切にする自己肯定感が育まれてきているのではないかと思われる。いずれの学年においても、個性を大切にし、自尊感情を高める教育活動を続けていくことが大切である。

③学校教育自己診断・授業評価等定量的評価及び定性的自己評価内容

<学校教育自己診断の結果より>

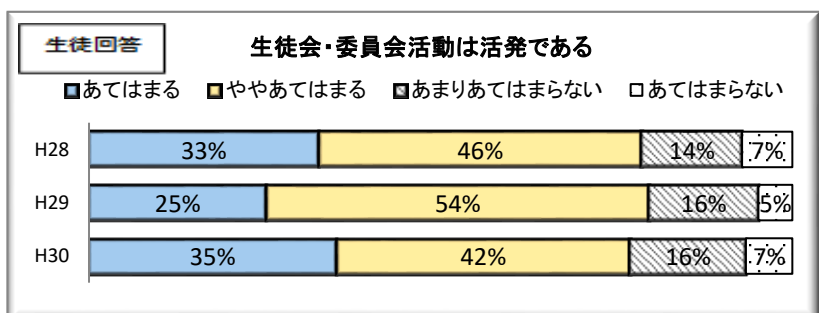
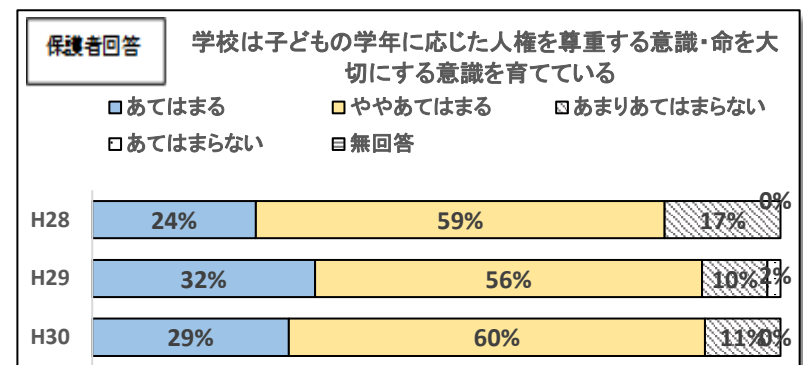
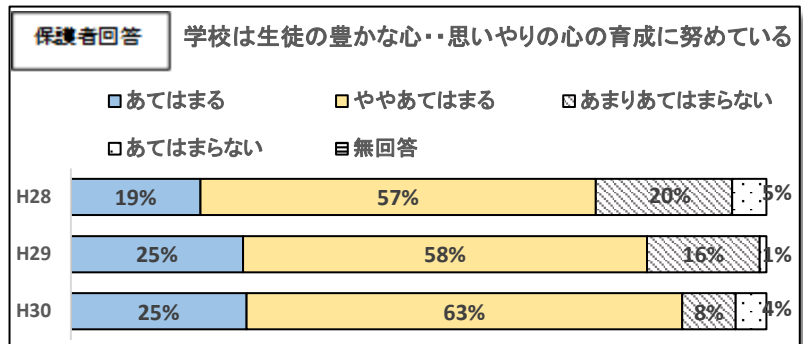
保護者からの回答では、本校の取組に概ねご理解いただいているようである。

特に右のグラフからも見て取れるように、「学校は生徒の豊かな心・思いやりの心の育成に努めている」では、88%の肯定的評価が出ている。また、「学校は子どもの学年に応じた人権を尊重する意識・命を大切にする意識を育てている」についても、肯定的評価が89%となっていて、本校の日常的な取組を評価していただいている。

これは学校の取組だけではなく、「差別を許さない心」「ちがいを認め合う仲間関係」などをテーマにしたPTA人権講演会など、家庭と学校との協力・連携があつてこそその結果と言える。

また、生徒自身も生徒会・委員会活動を肯定的にとらえ、生徒の自主的で創造的な取組に多くの生徒が賛同し参加していることがうかがえる。(右グラフ) 先述の生徒会主催行事も、生徒の発案と教職員や地域の支援で年々定着して恒例行事とな

ってきている。生徒会役員を務める生徒たちの有用感を高めていると思われる。小さい学校だからできる良さが活かされている側面である。



④ 学校関係者評価（学校協議会等からの提言）

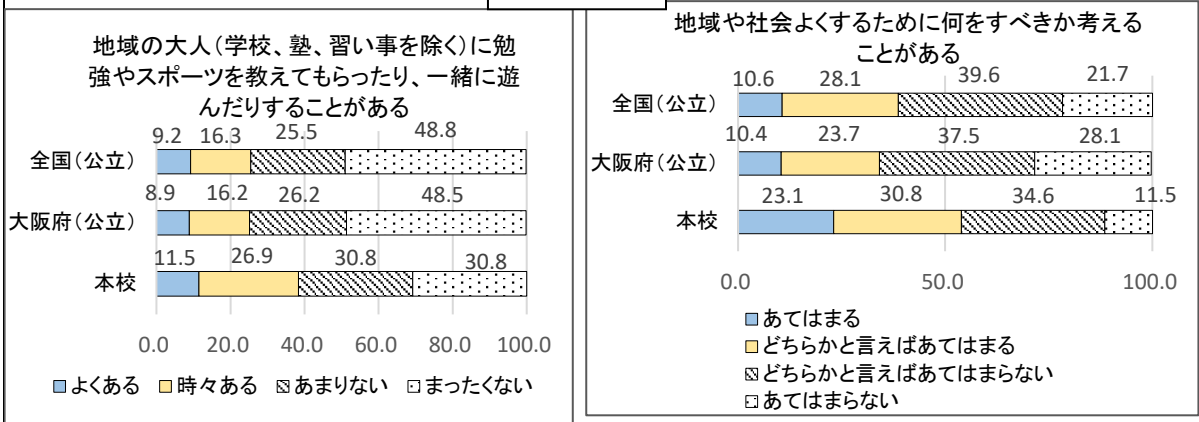
- 道徳授業を若手教員が中心となってやっているというのを聞き、よい取り組みだと思う。
- 道徳授業の今後の取り組みに期待し注目していく。
- 3年生の回答で、自分にはよいところがあると思うと答えた本校生徒が多くみられるのはすばらしいと思う。小さい時から一緒にすごしてきた仲間と育ててきた東能勢ならではの誇らしく思う。
- 自己肯定感は、他人を思いやる豊かな心のベースとなるものである。本校生徒の自己肯定感が高いのは、生まれてからこれまでにかかわった人々との良い関係により形成されたものと思う。これからもより多くの生徒が高まっていくことを望む。
- 学校の取り組みは功を奏していると思う。
- 道徳授業の中で人権意識を高める取り組みを行い、生徒たち自身も自身で考える取組が出来ているのは良かったと思う。
- 問題が多様化してくるので事案が発生した時の対処についての議論が重要である。

<p>① 設定 目標</p>	<p>～つながる～ 保護者・地域との信頼関係の構築、保・幼・小・中との連携</p>
<p>② 本 年 度 の 取 り 組 み 状 況</p>	<p>◆保護者・地域との連携</p> <p>①学校を会場とした連携行事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東能勢中学校区青少年育成協議会のミニスポーツ大会（10月21日） 今年度は競技や食品のメニューを一部改め、天気にも恵まれ、盛大に行われた。 中学生の参加は少ないものの、校区と関連している近隣地域からの子どもたちの参加もあり、子どもたちの交流の場となった。 ・PTA主催人権講演会 「新ちゃんのお笑い人権話」講師：落語家 露の新治氏（11月7日） 今年度も青少年育成協議会からの助成金とPTA予算で実施し、笑いあり感動の涙ありのお話を子どもから大人まで聞くことができた。「がんばる」は「頑なに張る」のではなく「願いが生きる、願生る」という言葉が生徒たちの心にもしみたようであった。 <p>②環境整備、教育活動に係る地域支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・草刈り大作戦（6月16日、9月15日、9月21日、9月26日） 今年度は草刈りの計画を立てる際、学校支援コーディネーターにもPTA運営委員会に参加してもらった。梅雨や残暑の中、熱中症等も心配されるので、短時間で効率よくできるよう、またできるだけ多くの人に参加できるように話し合った。その甲斐あってか6月は135名（生徒60名、小学生7名、保護者40名、教職員10名、地域サポーター18名）が参加して、2時間で見違えるような校庭になった。9月の草刈りも順調にでき、気持ちよく体育祭を迎えられた。 ・植栽活動（花植え、梅の実の収穫と梅ジュースづくり等） 今年度より行事精選で総合的な学習の時間としての花植え活動がなくなったので、放課後などを利用し、学校支援コーディネーターと生徒会が呼び掛けて地域サポーター、保護者とともにチューリップやパンジーの植栽を行った。 ・校区の9つの自治会に学校だよりを毎月届け、自治会で回覧をしていただき、本校の教育活動の様子を知らせている。 ・教育委員会主催の学び舎Nightには23名の生徒が参加して地域の指導者からの学習支援をいただいている。 <p>◆小中連携の充実</p> <p>小中連絡会議を開催し、小中共通の課題を研究・協議できた。その中で、次のように取り組みを進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校6年生の中学校体験 東能勢フェスタ舞台の部参観（6月15日）、授業体験・クラブ体験（10月23日） 生徒会入学説明会（1月23日）、給食試食会（6月、10月、保護者2月） ・児童会・生徒会の合同挨拶運動の実施 ・教職員合同研修会および交流会（8月25日） 道徳の授業づくりについて小学校からの研究内容を聞き、評価についてのグループワークを行った。また、児童生徒理解の交流を行った。 ・本校で取り組んでいる「授業スタンダード」を「東能勢中校区の授業スタンダード」として小学校との共有。中学校の定期テストに合わせた小学校の家庭学習システムの連携。 ・小学校、中学校それぞれの全国学力・学習状況調査の分析結果を交流し、東地区小中9年間での学力向上に向けた取り組みを進める。 ・学校協議会を小中合同で行う（3/7予定）。小中連携の取り組みを考え、意見を交流する。

<全国学力・学習状況調査の結果から>

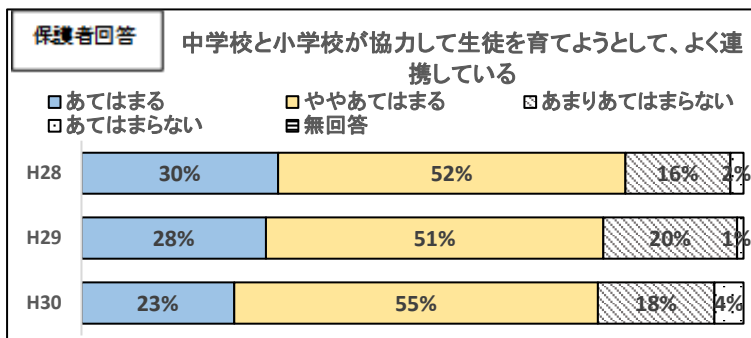
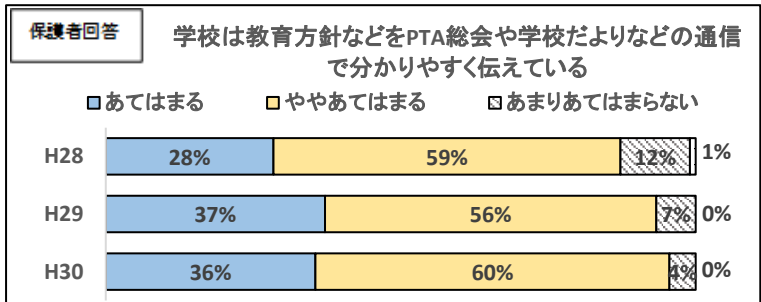
下のグラフを見ると、今年度の3年生は、地域に溶け込み日頃から地域の大人とも交流を持っているようである。そのためか、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」の質問にも全国に比べても肯定的で地域への思いや使命感を高く持っていることがうかがえる。

3年生回答



<学校教育自己診断 保護者アンケート結果より>

通信やHPなどの学校からの発信について、周知度も高くなってきているようで、学校からの情報を受け止めていただいている家庭が90%以上もある。学校と家庭の連携は平素のコミュニケーションによって成り立つものである。地域や家庭の理解・協力を得るためには学校からの丁寧なアプローチが大切であると実感する。



一方、左のグラフは東能勢小・中の連携についてであるが、70%近くの肯定的な見方をいただいているものの、活発な連携を行っているようには捉えられていない。学校規模も年々小さくなり、以前のように、小中の教員が常態的に授業を担当する「いきいき授業」などができなくなり、

また、週休日を使った行事をみなおしたので、交流できる場が少なくなってきたかもしれない。1小学校1中学校の強みを活かした取組に工夫が求められる。

④ 学校関係者評価（学校協議会等からの提言）

- 「小・中学校だより」が自治会内に回覧されたりしていることは、学校の見える化にも繋がりが評価する。紙面の改善、読みやすさの工夫が必要である。
- 学校からの通信発行など努力されている姿が伺える。
- 子ども園（保・幼）・小・中連携は、6年生の中学校体験などによる児童生徒の交流や、教職員合同研修など教職員の交流も行われており、東能勢中学校区内には、子ども園、小学校、中学校がそれぞれ1か所ずつしかないこともあって、ほぼ全員が進学することから、効果的に行われていると思う。
- 保護者・地域の方々との信頼関係等についてはものすごく良い関係が出来ていると思われる。除草作業についても多数の方々に参加いただいているのも信頼関係があるからだと思う。
- 小中の連携については今も良い状態であるが、今後さまざまな事案が出てくると思うので今まで以上の連携が必要になって来るであろう。
- 1小学校1中学校を生かした取り組みの工夫が必要であるが、特に、東地区の街づくり行政も取り込んだ対策が必要と考える。つまり、東地区の町づくりという視点での取り組みが必要である。
- ミニスポーツ大会は、いつも地域の方々の多くの協力で行われていて良い取組であるのに、あいかわらず中学生の参加が少ないとの事……。強制までいなくても、全員に近い子が参加できるようにした方がよいと思う。運動会とくっつけてみては？！
- 保護者が学校に頼りすぎている節があるように見受けられる。学校の現状を知ってもらい、保護者にも協力を仰ぐ体制を年度初めから促すことが必要であろう。その体制を小学校から構築することによってもっとスムーズに保護者に受け入れてもらえるのではないかと考える。